

移民2世と〈教育〉

— 『多様性と格差』という難問に向き合うために —

日時 2026年6月26日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 山野上 麻衣（委嘱研究員）

移民2世とは、親（移民1世）が国際移動し、親に連れられて子どもとして移動した、またはその移動先で生まれ、その社会で育った子どもを指す。日本では「外国ルーツの子ども」と呼ばれることも多い。移民2世をめぐる研究は子ども期だけを扱うものではないが、その国で子ども時代から育った人びとの統合に社会の側がどう成功してきたかという関心から展開してきた。「移民2世の大人」の研究も海外ではすでに蓄積があり、日本でも在日コリアンに関しては在日2世、3世の研究がすでに進展してきた。

今回の講座では、「ニューカマー」と呼ばれる人びとの子どもたちが1990年代以降に増加した文脈を踏まえ、その子どもたち（中心は南米系）をめぐる、日本社会がどのような〈教育〉的まなざしを注いできたかを考えていく。ここで〈教育〉というのは、狭義のフォーマルな学校教育にとどまらず、特定の意図をもった子どもたちへの働きかけ全般を指している。つまり、〈教育〉に携わるのは学校教師だけではなく、移民コミュニティや家族、日本の地域社会の市民でもあり、移民2世を「どのように〈教育〉すべきか」（どのような大人を目指し、どのような働きかけをすべきか）という関心は、さらに広く日本社会に存在する。

そのときに、「移民としての背景の多様性を尊重しよう／尊重してほしい」という意図と、「日本人と平等に、「一人前の大人」になるよう育てたい／そうになりたい」（そのために「日本人と同じように」勉強し進学し、就職する）と意図することは、時として鋭い緊張関係を生じさせる。このような緊張関係がどのような背景で生じるのか、そしてそれにどう向き合うのか、考えていきたい。

* * *

●聴講無料（定員200名／先着順）＜事前申込制＞

人権問題研究室ホームページ トップページ (<https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>) にある「新着情報」内の本講座案内ページの申込フォームから事前を受講申込をしてください。定員になり次第、受付を終了します。

空席がある場合に限り、事前申込をされていなくても聴講は可能です（当日会場にて参加受付を行います）。ただし、なるべく事前申込を行ってください。

- * 手話通訳や介助者同伴等が必要な場合は、6月4日（木）までに人権問題研究室へご連絡ください。
- * 今回の公開講座は、PCの原稿読み上げアプリによる合成音声で講演を行います。聴覚に障害をお持ちの方で合成音声が聴き取りづらいご経験があたりの方も併せてご連絡ください。

第125回 10月23日（金）13：00 「子どもの権利～子どもの声を聴くってどういうこと？～」(仮題)

第126回 11月27日（金）13：00 「IOCによる女性選手への遺伝子検査義務付けを検証する

～トランスジェンダー差別と反ジェンダー運動の流れから～」(仮題)

会場は、尚文館 1階 マルチメディアAV大教室（予定）



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

e-mail: jinkenken@ml.kandai.jp

ホームページ: <https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>



「新着情報」をご参照ください